

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	中国四国整備局 昭和38年度契約地																																				
<p>契約件数・面積及び植栽面積</p> <p>森林状況の変化</p> <p>林業情勢、農山村の他の社会情勢</p> <p>森林整備状況</p>	<p>187件 契約面積7,389ha</p> <p>1,977ha ヒノキ 2,979ha マツ 1,689ha カラマツ 15ha その他 2ha</p> <p>管内の郡道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保管内の底管全の4割程度を占める。昭和三十八年度をピークに下落傾向にあり、公有主体の果たず役割は引き続き大きい。</p> <p>管内の郡道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保管内の底管全の4割程度を占める。昭和三十八年度をピークに下落傾向にあり、公有主体の果たず役割は引き続き大きい。</p> <p>管内の郡道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保管内の底管全の4割程度を占める。昭和三十八年度をピークに下落傾向にあり、公有主体の果たず役割は引き続き大きい。</p>																																				
<p>機械的状況</p> <p>受益状況</p>	<p>伊予川水系の整備状況</p> <p>伊予川水系の整備状況</p> <p>伊予川水系の整備状況</p>																																				
<p>事業の進捗</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>平均樹高</th> <th>平均胸高直径</th> <th>植栽面積</th> <th colspan="2">不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>18.6m</td> <td>25.2cm</td> <td>360㎡</td> <td>広葉樹化 6%</td> <td>生育遅れ(狭) 1%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>14.0m</td> <td>21.1cm</td> <td>256㎡</td> <td>9%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td>15.2m</td> <td>22.7cm</td> <td>212㎡</td> <td>3%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>12.5m</td> <td>20.3cm</td> <td>119㎡</td> <td>6%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプリング調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。</p>	樹種	平均樹高	平均胸高直径	植栽面積	不良		スギ	18.6m	25.2cm	360㎡	広葉樹化 6%	生育遅れ(狭) 1%	ヒノキ	14.0m	21.1cm	256㎡	9%	1%	マツ	15.2m	22.7cm	212㎡	3%	1%	カラマツ	12.5m	20.3cm	119㎡	6%	15%	計					7%
樹種	平均樹高	平均胸高直径	植栽面積	不良																																	
スギ	18.6m	25.2cm	360㎡	広葉樹化 6%	生育遅れ(狭) 1%																																
ヒノキ	14.0m	21.1cm	256㎡	9%	1%																																
マツ	15.2m	22.7cm	212㎡	3%	1%																																
カラマツ	12.5m	20.3cm	119㎡	6%	15%																																
計					7%																																
<p>状況</p>	<p>生育状況</p> <p>生育状況</p> <p>生育状況</p>																																				
<p>森林調査未済地(注2)</p>	<p>生育状況の調査</p> <p>生育状況の調査</p> <p>生育状況の調査</p>																																				

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐帯を最大限に適用した強度な間伐等）することによるコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材の採用をしている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機械設備稼働への期待が大きく、引き続き調和作業の計画的な実施を要している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注2）森林調査済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注3）森林調査済地は、生育状況が林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）  
 （注4）森林調査済地は、樹高・Lha当たり材積とも収獲予測表の5等級の数値を示す。1割以上下回る林分を示す。  
 （注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見るとき、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のためにおおむね雪害等によって広葉樹林化した一部の林分については、伐取入の確保に努めながら主伐期の林分に隣接していく、密度管理のため植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等に努むこととする。</li> <li>・ 過去の契約地の事業実績や評価内容等を参考にして、適切な保育管理に努める。</li> </ul>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和43年度契約地						
契約件数・面積及び植栽面積	71件 359ha	契約面積 1,733ha	マツ 219ha					
森林状況の変化	林業情勢、農山村の他の情勢	管内の部道現在5千ha程度の民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保林の面積は、約5千ha程度存在し、引き継ぎ森林造成が必要である。						
森林状況の変化	林業情勢、農山村の他の情勢	管内の部道現在5千ha程度の民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保林の面積は、約5千ha程度存在し、引き継ぎ森林造成が必要である。						
森林調査地（注1）	森林調査地（注1）	吉野川水系御谷ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち44%が存在している。						
事業の進捗	生育状況（面積比率：98%）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	43ha334m	広葉樹化	生育遅れ（%）	計
		スギ	18.9m	25.0cm	4.07m <sup>2</sup>	5%	1%	7%
		ヒノキ	14.4m	21.9cm	2.72m <sup>2</sup>	7%		7%
		マツ	14.5m	21.7cm	2.10m <sup>2</sup>			
						6%		6%
森林調査地（注2）	生育状況（面積比率：2%）	樹種	普通	広葉樹化	生育遅れ	計		
		スギ	76%	24%	24%	100%		
		ヒノキ	78%			100%		
		マツ						
		その他の樹種						
		計	21%	78%	1%	100%		
		樹種別に不良の割合をみると、スギで24%、楠で1%である。						

（注）生育状況の悪化  
 原因：植栽木の1ha当たり成長本数が限生本数が（森林調査保障林における平均成長本数より1.3倍を超過し、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高より1.2倍以上あるもの。（b）植栽木の1ha当たりの平均的な山形が周辺の平均的な山形と比べて0.8倍未満であるもの。（c）植栽木の1ha当たり成長本数が周辺の平均的な山形と比べて0.8倍未満であるもの。（d）広葉樹化した林分のもの、（広葉樹等の成長天然性樹木が過当を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによるコスト削減を図る。
景観への配慮	適切な景観の実現に資する間伐材等木材を良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き通期作業の計画的な実施を要望している。</p> <p>（注1）森林調査は、概ねIV齢地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。          （注2）森林調査は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施された森林。          （注3）森林調査は、生育状況が良好な地域を対象としたものである。（広葉樹林化した林分を除く。）          （注4）森林調査は、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を示す。          （注5）関係者の意見は、意図的に選ばれるものである。</p>

要 歴 事 項	
期中評価実施地区の林分について	<p>・ 当該地区の個々の間伐等、植栽等の生育状況を把握し、間伐率を適正に調整し、間伐材の確保を図る。また、間伐材の確保を図る。また、間伐材の確保を図る。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保管理に努める。</p>

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名		中国四国整備局 昭和48年度契約地																														
<p>契約件数・面積及び植栽面積</p> <p>森林状況の変化</p>	<p>契約件数 167件 契約面積 5,030ha</p> <p>植栽面積 827ha ヒノキ 3,006ha マツ 563ha</p>																															
	<p>管内の都市部における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。</p>																															
<p>公益買収の重要性及び整備状況</p>	<p>管内の都市部における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。</p>																															
	<p>管内の都市部における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。そのうち、保線用林の面積は、約5千ha程度存在し、引き続き造林整備が必要である。</p>																															
<p>事業の進捗</p>	<p>生育状況 (面積比率: 96%) (注1)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>平均樹高</th> <th>平均胸高直径</th> <th>植栽面積</th> <th colspan="2">不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>17.3m</td> <td>31.6cm</td> <td>345㎡</td> <td>広葉樹化 19%</td> <td>生育遅れ(注4) 計 19%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>12.2m</td> <td>16.9cm</td> <td>216㎡</td> <td>3%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td>14.5m</td> <td>31.9cm</td> <td>225㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6%</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	樹種	平均樹高	平均胸高直径	植栽面積	不良		スギ	17.3m	31.6cm	345㎡	広葉樹化 19%	生育遅れ(注4) 計 19%	ヒノキ	12.2m	16.9cm	216㎡	3%	3%	マツ	14.5m	31.9cm	225㎡			計				6%	6%
	樹種	平均樹高	平均胸高直径	植栽面積	不良																											
スギ	17.3m	31.6cm	345㎡	広葉樹化 19%	生育遅れ(注4) 計 19%																											
ヒノキ	12.2m	16.9cm	216㎡	3%	3%																											
マツ	14.5m	31.9cm	225㎡																													
計				6%	6%																											
<p>広葉樹林化の理由</p>	<p>平均樹高及び平均胸高直径の値は、サンブル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。</p>																															
<p>森林調査未済地</p>	<p>生育状況 (面積比率: 4%) (注2)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="2">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>普通</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>95%</td> <td>5%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>98%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>96%</td> <td>4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	樹種	生育状況		計	普通	不良	スギ	95%	5%	100%	ヒノキ	98%	2%	100%	マツ				その他				計	96%	4%	100%	<p>(注)生育状況の高率                  良好：周囲木が成長し、生育状況が良好である。計 5%                  普通：周囲木が成長し、生育状況が普通である。計 96%                  不良：周囲木が成長し、生育状況が悪く、伐採が必要である。計 4%</p>			
	樹種	生育状況		計																												
普通		不良																														
スギ	95%	5%	100%																													
ヒノキ	98%	2%	100%																													
マツ																																
その他																																
計	96%	4%	100%																													
<p>広葉樹林化の理由</p>																																

事業コスト削減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによるコスト削減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を求めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注2）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注3）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注4）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注5）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

留意事項	
期中評価実施地区の林分について	<p>・ 当該地区の個々の間伐木は、生育状況を見るとき、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、過度管理のため、間伐木は、適正な間伐管理が行われ、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。</p> <p>・ 当該地区の個々の間伐木は、適正な間伐管理が行われ、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。</p>

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	中国四国整備局 昭和53年度契約地																																
契約件数・面積及び 植栽面積	契約面積 3,323ha 契約件数 106件 マツ 706ha ヒノキ 1,895ha																																
森林状況の変化	中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保林の整備は、農林省の委託によるものであり、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は、中国四国整備局管内の私有林の管理水準が低下している。1ha~10ha未満の林家が9割を占めているものの、私有林の面積は、昭和55年をピークに下総傾向にあり、所有者等の自助努力による遊林が区画となつてきている。中国四国整備局管内の公有林の面積は、昭和55年をピークに下総傾向にあり、所有者等の自助努力による遊林が区画となつてきている。中国四国整備局管内の公有林の面積は、昭和55年をピークに下総傾向にあり、所有者等の自助努力による遊林が区画となつてきている。																																
公共的設備の整備状況	江の川水系等に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち36%が存在している。江の川水系等に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち36%が存在している。																																
事業の進捗状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th rowspan="2">平均樹高</th> <th rowspan="2">平均胸高直径</th> <th colspan="2">植栽状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>広葉樹化</th> <th>生育遅れ(注1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>14.0m</td> <td>18.1cm</td> <td>8%</td> <td>2%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>11.1m</td> <td>18.4cm</td> <td>3%</td> <td>1%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td>15.9m</td> <td>24.2cm</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td>1%</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	樹種	平均樹高	平均胸高直径	植栽状況		計	広葉樹化	生育遅れ(注1)	スギ	14.0m	18.1cm	8%	2%	10%	ヒノキ	11.1m	18.4cm	3%	1%	4%	マツ	15.9m	24.2cm				計			5%	1%	6%
	樹種				平均樹高	平均胸高直径		植栽状況		計																							
広葉樹化		生育遅れ(注1)																															
スギ	14.0m	18.1cm	8%	2%	10%																												
ヒノキ	11.1m	18.4cm	3%	1%	4%																												
マツ	15.9m	24.2cm																															
計			5%	1%	6%																												
<p>平均樹高及び平均胸高直径の数は、サンブル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。</p> <p>広葉樹化の割合は、林分が選別されている林分は6%である。広葉樹化の割合は、林分が選別されている林分は6%である。</p>																																	
森林調査未済地(注2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="2">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>96%</td> <td>4%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>97%</td> <td>3%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで4%、杉で3%である。</p>	樹種	生育状況		計	普通	広葉樹化	スギ	100%		100%	ヒノキ	96%	4%	100%	マツ				計	97%	3%	100%										
樹種	生育状況		計																														
	普通	広葉樹化																															
スギ	100%		100%																														
ヒノキ	96%	4%	100%																														
マツ																																	
計	97%	3%	100%																														

事業コスト削減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによるコスト削減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の長観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作楽道同設等においては景観と調和する間伐材等木材の利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向(注5)	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きくなり、引き続き適切な計画的な実施を要している。

(注1) 森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 (注2) 森林調査は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施された森林。  
 (注3) 森林調査は、生育状況を林齢別に加減平均したものから、(広葉樹林化した林分を除く。)  
 (注4) 森林調査は、樹高・1ha当たりの材積とも取換率表の5等地の散度を1割以上下回る林分を示す。  
 (注5) 関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分について	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地区の種々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のためのおおむねの植栽密度を適正に保っている。間伐取入れの確保が主目的の林分を踏襲していく。密度管理のためのおおむねの植栽密度を適正に保っている。間伐取入れの確保が主目的の林分を踏襲していき、変更し、また、植栽木のおおむねの生育が選れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保管等により、過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考に、適切な保管管理に努める。</li> </ul>





植 栽 事 項

期中評価地区の林分についての対応

- 当該地区の適正な植栽状況、お  
よび、林況の改善を図ると、植栽木が順調に生育し、除伐等を行う  
など、枝通しの要約地の事業実施や評価内容や検討内容を参考に、適切な保育管理に努める。
- 当該地区の適正な植栽状況、お  
よび、林況の改善を図ると、植栽木が順調に生育し、除伐等を行う  
など、枝通しの要約地の事業実施や評価内容を参考に、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	中国四国整備局 昭和63年度契約地																																								
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数94件 契約面積1,745ha 植栽面積212ha ヒノキ 1,187ha その他 16ha																																								
森林・林業情勢、農山村の状況、その他社会情勢の変化	<p>中国四国整備局管内の森林の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保林・林業情勢、農山村の状況、その他社会情勢の変化</p> <p>中国四国整備局管内の森林の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保林・林業情勢、農山村の状況、その他社会情勢の変化</p>																																								
公益的機能からの重要性及び貢献度、周辺公共施設の整備状況	<p>那賀川水系小見野々ダム、仁迎川水系御谷ダム等に係る流域(集水区)内に当該契約面積のうち28%が存在している。</p>																																								
事業の進捗状況	<p>生育状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>不良</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>10%</td> <td>89%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>10%</td> <td>88%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10%</td> <td>88%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで2%、計で2%である。</p> <p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目標とする。また、枝打に当たっては、生育及び発出条件の良好な箇所を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>	樹種	生育状況				計	良	普通	不良	計	スギ	10%	89%	1%	1%	100%	ヒノキ	10%	88%	2%	2%	100%	カラマツ		100%			100%	その他						計	10%	88%	2%	2%	100%
樹種	生育状況				計																																				
	良	普通	不良	計																																					
スギ	10%	89%	1%	1%	100%																																				
ヒノキ	10%	88%	2%	2%	100%																																				
カラマツ		100%			100%																																				
その他																																									
計	10%	88%	2%	2%	100%																																				
事業性の可能	<p>景観への配慮</p> <p>周辺作業の計画的な実施を要望している。</p>																																								
関係者の意見・意向(注)	<p>関係者の意見・意向</p> <p>(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。</p>																																								

(注)生育状況の取扱い  
 良野：植栽木の1ha当たり植立本数が概算生育本数以上であるが、生育が良好な状態にあるものを指す。  
 普通：植栽木の1ha当たり植立本数が概算生育本数にほぼ等しい状態にあるものを指す。  
 不良：植栽木の1ha当たり植立本数が概算生育本数以下であるか、生育が著しく遅延している状態にあるものを指す。  
 計：植栽木の1ha当たり植立本数の合計である。



# 項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局 平成5年度契約地
<p>契約件数 127件 契約面積 1,565ha                  植栽面積 234ha ヒノキ 1,104ha その他 38ha</p> <p>森林・林業情勢、他の山                  漁村の状況、その変化</p>	<p>中国四国整備局 平成5年度契約地                  契約件数 127件 契約面積 1,565ha                  植栽面積 234ha ヒノキ 1,104ha その他 38ha</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>
<p>社会的機能からの重要性及び公共施設の整備状況</p>	<p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>
<p>事業の進捗状況</p>	<p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>
<p>事業コスト削減の可能性</p>	<p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>
<p>景観への配慮</p>	<p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>
<p>関係者の意見・意向（注）</p>	<p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p> <p>中国林業情勢、他の山の状況、その変化</p>

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。



項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	中国四国整備局 平成10年度契約地																																						
<p>契約件数・面積及び植栽面積</p> <p>山林・林業情勢、農山村の状況、その他社会情勢の変化</p>	<p>契約件数152件 契約面積2,169ha 植栽面積 198ha ヒノキ 1,508ha その他 84ha</p> <p>山林・林業情勢、農山村の状況、その他社会情勢の変化</p>																																						
<p>公益性及び貢献度の確保の整備状況</p>	<p>江の川水系等関係の流域(薬水区域)内に当該契約面積のうち38%が存在している。</p>																																						
<p>事業の進捗状況</p>	<p>生育状況</p> <table border="1" data-bbox="925 985 1197 1792"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="3">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>12%</td> <td>83%</td> <td>5%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>5%</td> <td>93%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>17%</td> <td>83%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7%</td> <td>91%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで5%、ヒノキで2%、その他の樹種計で2%である。</p> <p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目的とする。また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に徹底し、主伐を想定して運木することによりコスト削減を図る。</p>	樹種	生育状況			計	良	普通	不良	スギ	12%	83%	5%	100%	ヒノキ	5%	93%	2%	100%	マツ					カラマツ					その他	17%	83%		100%	計	7%	91%	2%	100%
樹種	生育状況			計																																			
	良	普通	不良																																				
スギ	12%	83%	5%	100%																																			
ヒノキ	5%	93%	2%	100%																																			
マツ																																							
カラマツ																																							
その他	17%	83%		100%																																			
計	7%	91%	2%	100%																																			
<p>景観への配慮</p>	<p>適切な景観と調和を図る。人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等において周辺の平均的な山林と同様の生育を望んでいる。</p>																																						
<p>関係者の意見・意向(注)</p>	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育を望んでいる。関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。</p>																																						

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

